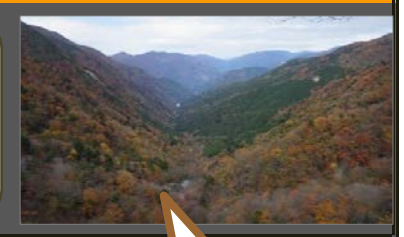
国土交通省　中部地方整備局
天竜川上流河川事務所 遠山川砂防出張所

天竜川上流工事安全協議会 遠山川支部

令和2年度　第8号（令和2年/12月発行）

カモシカ通信

月日が経つのは早いもので、あっという間に今年も後わずかとなってきました。昨年は記録的な暖冬でしたが、天気予報によると、今シーズンは冬らしい「冬」になるとの予報です。朝起きるのが辛くなりそうですね。今回のカモシカ通信は、新たに発注された『令和２年度　天竜川水系小嵐川第３砂防堰堤工事用道路工事』についてご紹介します。



青崩峠より
遠山谷を望む

令和２年度　天竜川水系小嵐川第３砂防堰堤工事用道路工事

私たちが工事を担当しています!

現場代理人の　小林 真弥
監理技術者兼任です。

現場担当の　村澤 崇将
です。

池端工業株式会社

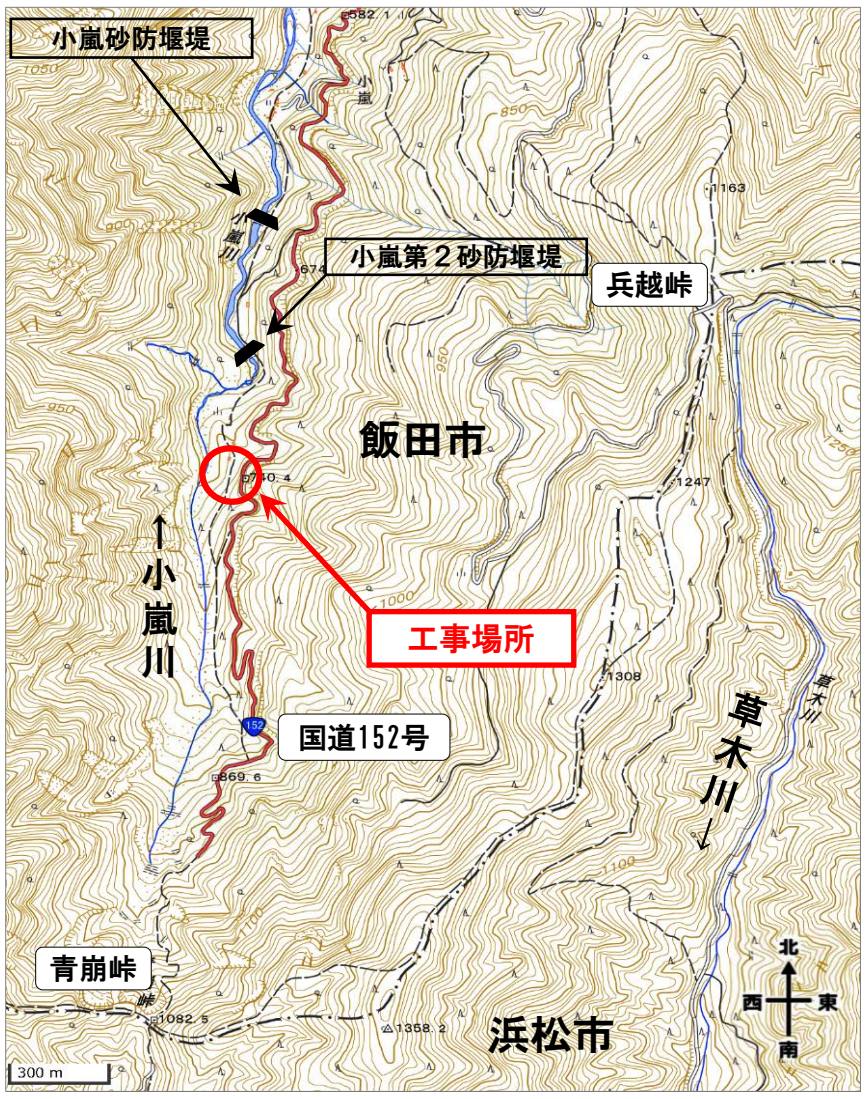
■　現場からご挨拶　■

皆様、こんにちは！池端工業株式会社の小林と申します。日頃は弊社が行う工事でいろいろとお世話になっており、この場をお借りして御礼申し上げます。

この度久しぶりに天竜川上流河川事務所発注の工事を担当することになり、できることからコツコツとやっていきたいと思っています。弊社唯一の若手技術者（40歳まで）である村澤も一緒に工事を担当します。

さて、今回の工事は、小嵐川第3砂防堰堤を建設するための工事用道路を整備するもので、将来砂防堰堤にたまった土砂・流木を取り除くために使用する管理用道路として残すことになります。皆様にはいろいろとご迷惑おかけしますが、事故がないよう工事を進めますので、どうぞよろしくお願いします。

【工　　期】　令和2年10月1日から令和３年5月31日まで
【工事概要】　道路改良工事　1式
道路土工1式、地盤改良工1式、法面工1式、擁壁工1式,、
石・ブロック積(張）工1式、カルバート工1式、排水構造物工１式、
舗装工1式、防護柵工1式、道路付属施設工1式、構造物撤去工1式、
仮設工1式



秋葉街道が現場のすぐ近くを通っています。石碑や住居跡が残っていて、盛んに利用された頃の面影が偲ばれます。

【秋葉街道】近世中・後期から火防の神として知られる秋葉神社参詣のため盛んに利用された道。秋葉信仰が広がる前から存在していた古い道で、諏訪から太平洋への最短経路であった。中央構造線に沿う道は、直線でかつ、大きな川がないため、東西間の交通路として盛んに利用された。
（「人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト」より引用）

古屋

石垣

石碑

位置図

遠山川砂防出張所の一節

青崩峠（あおくずれ）と小嵐川（こおろし）の砂防

信州に暮らしていると、進学、就職、転勤、仕事、旅行などで他地方へ移動するには「峠」を越えてゆかねばなりません。これまで幾多の「峠」を越えてきたつもりですが、「青崩峠」は未だ越えた経験がない「峠」です。なぜなら国道152号の通行不能区間にあり、車で行くことができないからです。

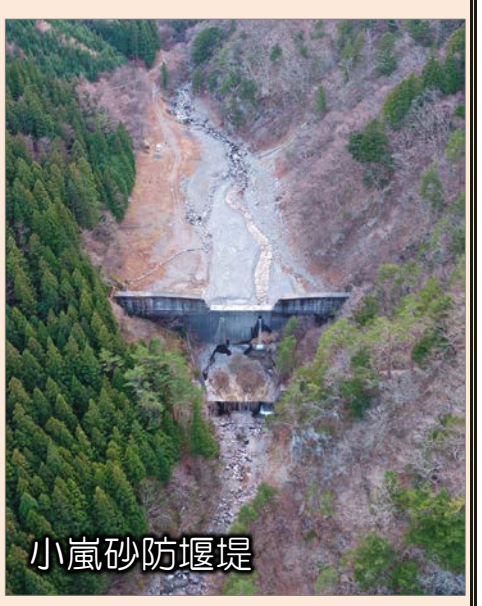
「青崩峠」は、縄文期から「塩の道」、中世から戦国時代は「軍用路」、江戸時代には信州方面から浜松市天竜区にある秋葉神社へ参拝するための「信仰の道」として、往来が盛んであった秋葉街道の、長野県と静岡県の境にある標高1082mの峠です。長野県側から手前までは行ったことがあり、山は険しく崩れた岩肌が薄青く見えて、峠の名称のとおりだと直感したことを覚えています。この崩れから生産される不安定土砂が小嵐川を流れるので、直轄砂防事業として「小嵐砂防堰堤」が昭和63(1988)年に、小嵐第2砂防堰堤が平成5(1993)年に完成しています。

令和の時代になって「小嵐川第3砂防堰堤」の建設に着手することになり、建設予定地を調査に行きました。予定地に近接する秋葉街道沿いには住居の跡が残っていたりして、過ぎ去った時間とこの険しい街道を利用した昔の人々の生活を想像すると、なぜか涙がでてきてしまいました。

遠山川砂防出張所　今村　俊裕

青崩峠へ向かう国道152号

国道152号と林道の分岐点



高さ18m、長さ85m、
計画貯砂量49,000m³